



臼杵市医師会と臼杵市の取り組み

プロジェクトZ12(在宅医療連携拠点事業)から
プロジェクトZ13・14(地域医療再生基金)

○臼杵市医師会立コスモス病院
地域医療福祉連携室
医療ソーシャルワーカー 野上美智子
臼杵市役所 協働まちづくり推進局
理事兼局長 西岡隆
プロジェクトZ



本日本日お伝えすること

1. 臼杵市の現状

2. 3年間の組織変遷と共有概念の変化

3. 事業推進のポイント



臼杵市の背景(プロジェクトZ開始時)

人 口 40,520人 (2012.10.1現在)

男 性 18,978人

女 性 21,542人

世帯数 15,473戸

年少人口 4,828人 (0~14歳 ・12%)

生産年齢人口 23,145人 (15歳~64歳・56%)

老年人口 13,480人 (65歳以上 ・32%)

団塊世代 4,027人 (0~4歳のほぼ3倍)

要介護認定者 2,620人 (平成22年)

高齢化率 32% →現在35%

臼杵市の保健医療体制

2012.11.1現在

医療機関 臼杵市医師会立コスモス病院

病院	3
医院・診療所	28
医師数	56

歯科医院	16
歯科医師数	26

臼杵市医師会立コスモス病院

病床数 **202床**(地域包括ケア病床) 開放型病院

診療科目 内科 循環器科 呼吸器科 胃腸科 外科

整形外科 リハビリテーション科 リウマチ科 肛門科 放射線科

看護体制 **10対1** 在院日数 **21日** 紹介率 **92%**

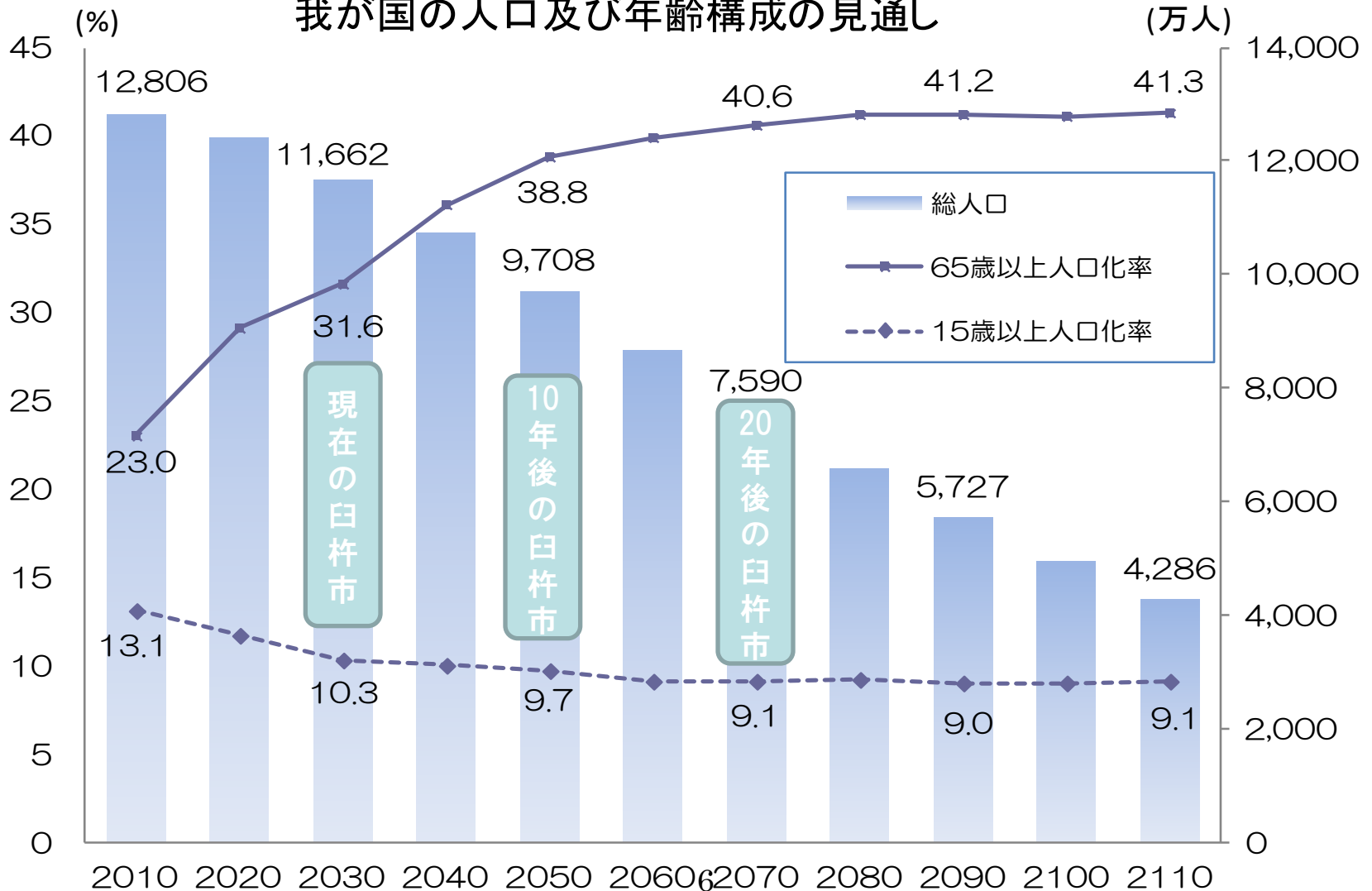
特 徴

- ・地域医療支援病院 1/123
- ・災害拠点病院 2医療圏1
- ・難病支援基幹協力病院 1/12
- ・地域リハビリテーション広域支援センター 1/10

臼杵市の少子高齢化と全国との比較

- 臼杵市の高齢化は、すでに20年後の日本の姿になっている。10年後には、40年後の日本の姿に。高齢化を先取りしている分、様々な課題にいますぐ取り組む必要がある。

我が国の人口及び年齢構成の見通し



(出典)「日本の将来推計人口(平成24年1月推計、中位推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)



在宅医療連携拠点事業のタスク

- ①多職種連携の課題に対する解決策の抽出
- ②在宅医療従事者の負担軽減の支援
- ③効果的な医療提供のための他職種連携
- ④在宅医療に関する地域住民への普及啓発
- ⑤在宅医療に従事する人材育成
- ⑥復興枠

MSWより提案→個々の事業における連携があった

医療と福祉の連携・うすき石仏ねっと→総括の時期と判断



行政機関との合意・専門職団体・実務者への説明

事業説明を行ない行政の政策や事業とのすり合わせを行なった



① 保健所・市役所 医師会・コスモス病院



② 専門職団体(推薦による)の代表者

コアメンバー
医師・看護師・MSW



③ 在宅医療・福祉に関わる専門職の方々への協力依頼

1年で事業を達成できるための組織編成

厚生労働省

35名(大分県2名 臼杵市7名)

臼杵市医師会

大分県

臼杵市

臼杵市医師会 - 臼杵市医師会立コスモス病院【地域医療福祉連携室】

プロジェクトZ

コアメンバー ケアマネを持った看護師・安東 医療ソーシャルワーカー・野上 連携室MSW
医師・舩友 事務局 平田局長・佐藤事務長 情報室・小野 地域包括支援センター・久保田

(医師会)吉田(訪問看護)宇野・高崎(保健所)藤内・市原(福祉保健)大戸・吉賀(高齢者支援課)芳山(保健健康課)姫嶋(福祉課)藤澤(総務課)江川(コミュニティ防災課)板井(歯科医師会)小名川(薬剤師会)神田・正国(歯科衛生士会)有松(栄養士会)安部(社協)伊藤(居宅支援事業所)太田・疋田(ホームヘルパー)高山(コスモス病院)亀井・竹村(県リハ)

実働メンバーを追加して実施

調査班

- 1.医療従事者調査
- 2.医療福祉従事者調査
- 3.当事者調査

広報班

- 1.資源マップ作成
- 2.啓発用チラシ作成
- 3.講演会開催
- 4.ケーブルテレビ番組

研修班

- 1.研修課題抽出
- 2.研修実施
- 3.ホームページへの掲載

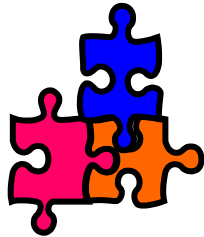
IT班

- 1.うすき石仏ねっと
- 2.訪問看護とのアクセス
- 3.要援護者の把握
- 4.防災機器の準備
- 5.安心キットとの連携

防災班

24時間体制班

- 1.開業医への啓蒙
- 2.訪問看護との連携
- 3.24時間体制構築



在宅医療連携拠点事業のイメージ図

厚生労働省

医療・介護サービス保障の強化

第2回社会保障制度改革国民会議
(平成24年12月7日)山崎委員提出資料

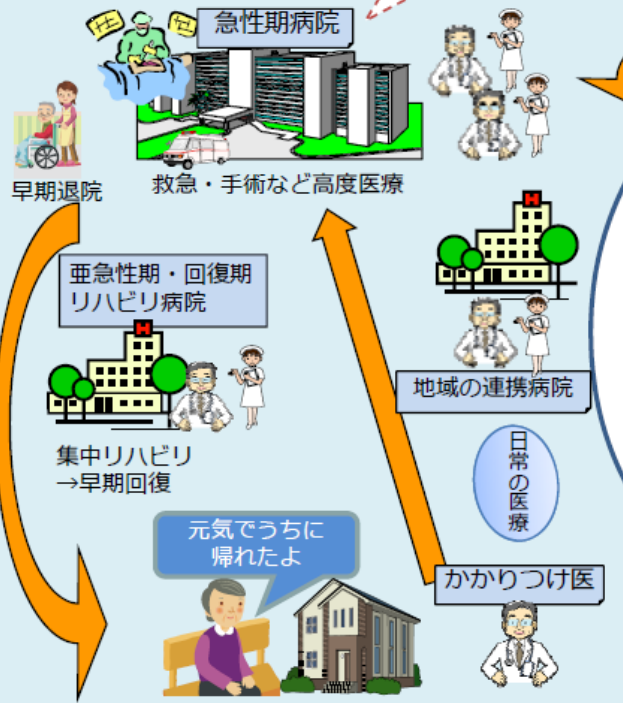
- 病床機能に応じた医療資源の投入による入院医療強化
- 在宅医療の充実、地域包括ケアシステムの構築

どこに住んでいても、その人にとって適切な医療・介護サービスが受けられる社会へ

改革のイメージ

(人員 1.6倍
~2倍)

病気になったら



包括的
マネジメント

- ・在宅医療連携拠点
- ・地域包括支援センター
- ・ケアマネジャー



- ・医療から介護への円滑な移行促進
- ・相談業務やサービスのコーディネート

- ・地域の病院、拠点病院、回復期病院の役割分担が進み、連携が強化。
- ・発症から入院、回復期、退院までスムーズにいくことにより早期の社会復帰が可能に

退院したら

<地域包括ケアシステム>
(人口1万人の場合)

医療



- ・在宅医療等
(1日当たり
17→29人分)
- ・訪問看護
(1日当たり
31→51人分)

通院

在宅医療
・訪問看護

住まい



通所

介護



- ・24時間対応の定期巡回・随時対応サービス
(15人分)

- ・グループホーム
(17→37人分)
- ・小規模多機能
(0.25か所→2か所)
- ・デイサービス など

- ・介護人材
(219→364
~383人)



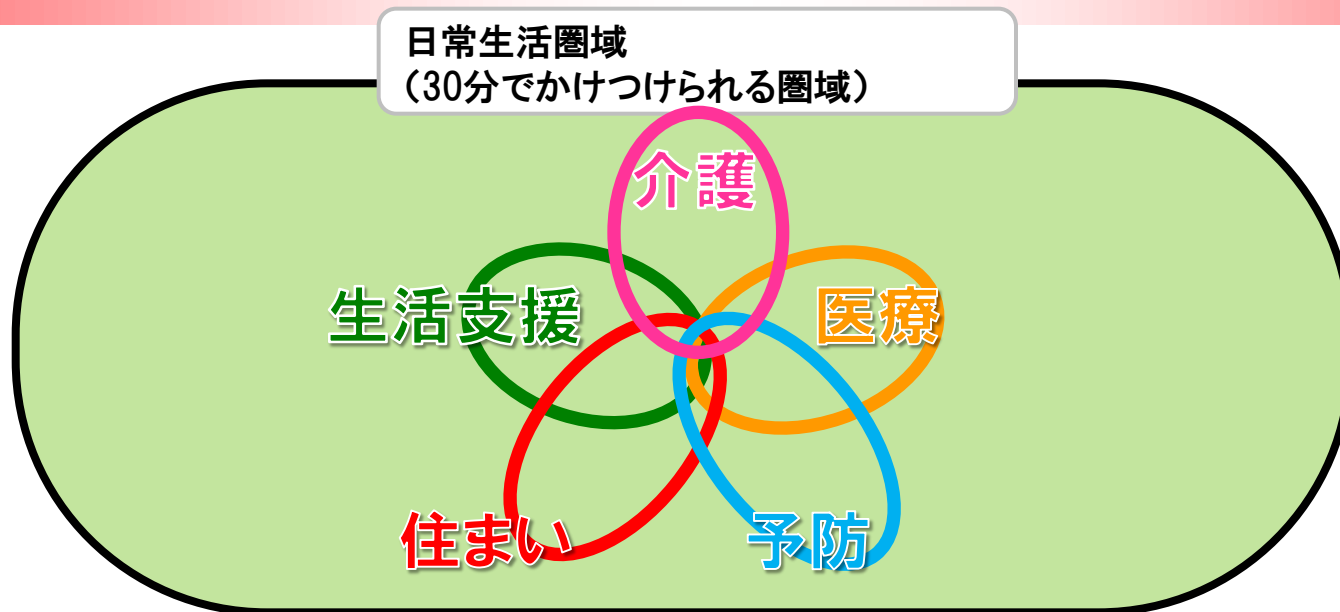
生活支援・介護予防

※地域包括ケアは、人口1万人程度の中学校区を単位として想定

※数字は、現状は2012年度、目標は2025年度のもの

地域包括ケアの概念を手本とした

厚生労働省



【地域包括ケアの5つの視点による取組み】

地域包括ケアを実現するためには、次の5つの視点での取組みが包括的(利用者のニーズに応じた①～⑤の適切な組み合わせによるサービス提供)、継続的(入院、退院、在宅復帰を通じて切れ目ないサービス提供)に行われることが必須。

①医療との連携強化

・24時間対応の在宅医療、訪問看護やリハビリテーションの充実強化。

②介護サービスの充実強化

・特養などの介護拠点の緊急整備(平成21年度補正予算:3年間で16万人分確保)
・24時間対応の在宅サービスの強化

③予防の推進

・できる限り要介護状態とならないための予防の取組や自立支援型の介護の推進

④見守り、配食、買い物など、多様な生活支援サービスの確保や権利擁護など

・一人暮らし、高齢夫婦のみ世帯の増加、認知症の増加を踏まえ、様々な生活支援(見守り、配食などの生活支援や財産管理などの権利擁護サービス)サービスを推進。

⑤高齢期になっても住み続けることのできるバリアフリーの高齢者住まいの整備(国交省)

・高齢者専用賃貸住宅と生活支援拠点の一体的整備、・持ち家のバリアフリー化の推進

プロジェクトZ12の評価とZ13の目標設定

1年の在宅医療連携拠点事業で基礎づくり

→2025年へ向けての10年のプロジェクトとする

臼杵市長のマニフェストー新時代の5つの基盤づくり

2.高齢者が安心して生き生きと暮らせるまち～安心～

・地域医療連携の強化

2013年度の課題

- ・プロジェクトメンバーは継続
- ・活動内容の検討→作業班の見直し
- ・市町村への移行までは臼杵市医師会立コスモス病院が担当
- ・事業費の確保

臼杵市における共通概念の共有-Z13

健康－福祉－医療の連携

- 認知症対策
- DMネットワーク
- ヘルスファアップ
- 自殺対策
- 救急体制
- お守りキット
- 地域包括ケアシステム
- 予防事業
- 福祉施設の充実
- 医療体制の充実
- 介護保険サービス
- がん在宅療養
- 在宅医療連携
- 在宅での看取り
- 訪問看護の充実
- かかりつけ医

中年期からの個人のライフステージ

- 認知症サポーター
- 地域づくり
- 地域振興協議会
- うすき石仏ねっと
- お守りキット
- 市民後見人
- 在宅という名の施設
- 医師の確保
- 血縁を持たない方の看取り
- 財産整理の課題

厚生労働省6のタスクから臼杵市に必要な3課題へ

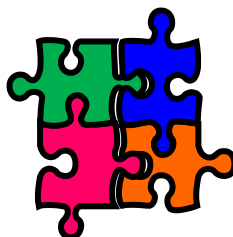
平成24年在宅医療連携拠点事業からプロジェクトZ13へ

1. 「自己決定できる」ための市民への啓発
 - ・「最期まで家で暮らしたい」と言える患者
 - ・「家がいいね」と言える家族と地域
2. 医療と介護の連携と実践力の強化
 - ・連携のしくみづくりーITの活用
 - ・在宅医療に関する理解と実践力
3. 予防事業から看取りに至るまでの一貫した概念の共有
 - ・行政と事業の連携と意識改革

大分県・藤内

臼杵市・西岡・大戸・吉賀・藤澤

臼杵医師会・吉田



臼杵市医師会立コスモス病院

安田・平田・佐藤・小野・亀井

事業推進担当(コア) 舛友・安東・野上・石井
地域包括支援センターが加わる

地域医療福祉連携室 妻川・吉野・大串・山田

48名 (大分県4名 臼杵市15名)

調査班→地域リーダー班

地域リーダー班

班長 藤内

都道府県リーダー 藤内・野上

地域リーダー 石井・久保田・安部

正田・藤澤・姫島・寺本・妻川

①地域リーダー研修

プロジェクト+地域ケア連絡会議メン
バー ・1回開催100人くらい養成可能

啓発班

班長 竹村

ドクター・市民対象啓発 市民公開講
座 テーマ「看取り」小笠原文雄

竹村・吉賀・姫野・山口・古田・大串

・ケーブルTV 藤沢 吉野

・ミニ講演会 野上

研修班

班長 安東

院内スキル→退院支援 地域連携の
ありかた

安東・亀井・進来・本田・山田

地域スキル→医療知識とスキルアップ

吉田・太田・吉賀・田中・吉山・末松・
宇都宮・高山・小畑・宇野

うすき石仏ねっと

班長 舛友

薬手帳・DM手帳の電子化

大戸・小野・舛友・佐藤・江川・小名川・海士野・

高橋・水口

防災班

班長 板井

災害時要援護者システム 板井・高野・大戸・祖父江・富田・野上

多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業

平成24年度

都道府県リーダー研修
都道府県の行政担当者、在宅療養支援診療所連絡会等

○都道府県の役割

- ・ 都道府県リーダーとなりうる地域の在宅医療関係者の推薦
- ・ 都道府県リーダー研修への参加
- ・ 地域リーダー研修の実施

市区町村単位でリーダーを養成

地域のリーダー

地域のリーダー

平成25年度



プロジェクトZは25年で94名・26年で75名の地域リーダーを養成

Z13の評価を行いZ14の目標設定

地域医療再生基金2年目

「自分らしい生き方を選択しましょう」(市民への提案)

- ・「住み慣れた場所」がいいですね
- ・「人生の終え方」を考えましょう

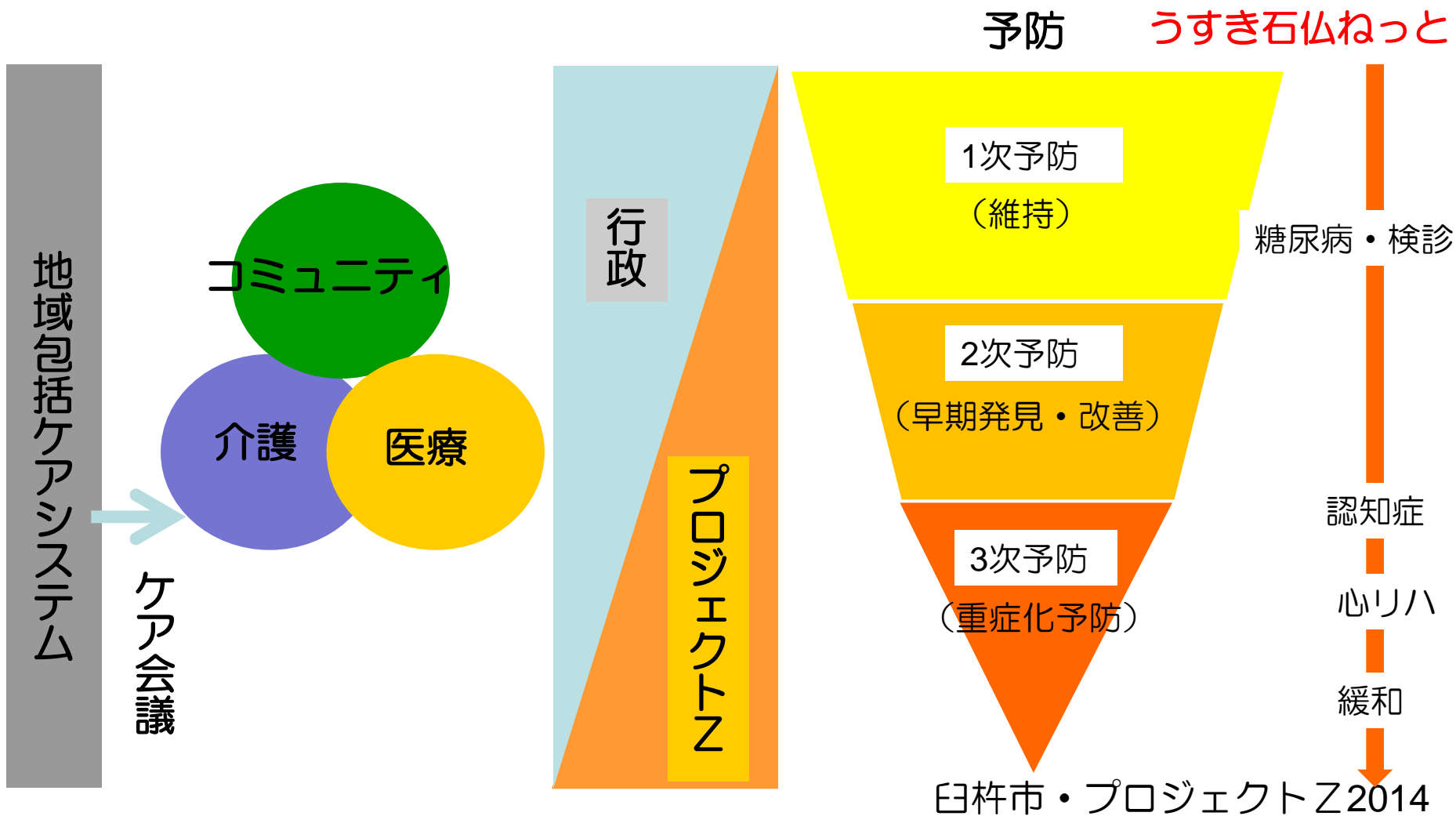
1.医療と介護の連携と実践力の向上(研修・交流)

- ・それぞれの立場での連携力の向上
- ・顔の見える関係の構築
- ・認知症があっても暮らせる地域
- ・地域で行われる研修の把握と活用

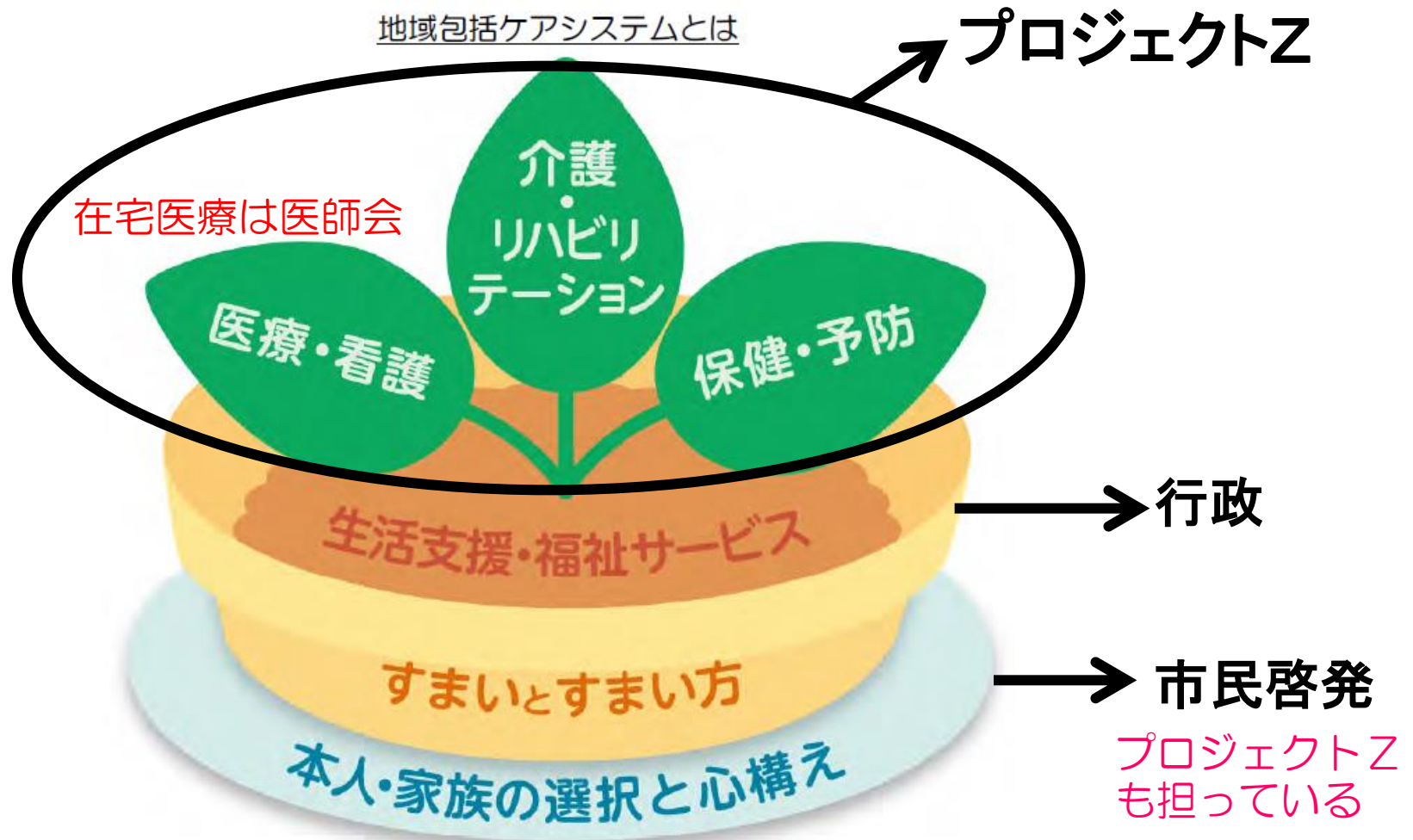
2.予防事業から看取りに至るまでの一環した概念の共有

- ・地域包括ケアの視点
- ・「うすき石仏ねっと」の利活用

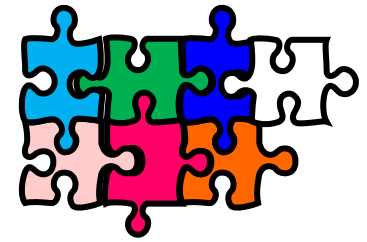
臼杵市における地域包括ケアの共通概念-Z14



厚生労働省の概念図とてらし合わせる



プロジェクトZ14とワーキンググループ 70名(大分県6人 臼杵市22人)



プロジェクトZ14



地域リーダー班
 班長 藤内修二
 野上美智子

都道府県リーダー 藤内修二・野上美智子 地域リーダー 久保田美代子 石井義恭
 松尾佳子 藤澤清晴 **芳山小百合** 甲斐まゆみ

地域リーダーフォローアップ
 Z以外でリーダーとなった方約50名
 検証グループ

啓発班
 班長 吉賀正彦
 竹村 仁

・市民公開講座 認知症 終末期
 山口輝華 姫嶋千世美 那賀啓史
 水口裕子 宇都宮仁美 連携室全員

小講演会
 牧 美幸

・ケーブルTV
 齋藤隆生 藤澤貴宏
大串あゆみ

研修班
 班長 亀井千佳
 安東直美

・在宅復帰支援=地域連携
 安東直美 **進來美穂** 小畑和美 田中美智子
 湯浅恭子 宇都宮浩二 和田輝美 村上達郎
 妻川真理子 橋本詠実

地域医療福祉従事者スキルアップ
 亀井千佳 吉田敏子 **尾形美歩** 古田祐子
 山田茉由 本田祐一

IT班
 班長 舩友一洋
 石井義恭

・うすき石仏ねっとの医療介護連携
 西岡隆 大戸徳一 吉賀正彦 佐藤修治 成田裕樹
 江川徹 安藤隆文 海士野ミサコ 橋本美穂 高崎嘉代子
 安東和枝 板井安代 石井義恭 **西水理恵**

薬手帳・遠藤晃五郎

歯科・小名川良輔

ホームページ

防災班
 班長 高野卓之
 竹村 仁

板井幸則 大戸敏雄 平川輝信 **富田範子**
 広戸隆宏 柴田監 疋田正三
 野上美智子

医療・災害時要援護者システム
 地域包括支援センター

施設・訪看連携
 安東直美 進來美穂
 妻川真理子

ケアマネ連携
 吉田史郎 安東和枝 川野葉子
 橋本詠実

認知症パス
 藤野孝雄 東純子 板井安代

在宅スマートメディア

プロジェクトZ 年度末の報告会→次年度の目標設定



懇親会 顔の見える関係づくりはひたすら楽しく



市長・副市長・関係課長
医師会・多くの専門職



行政事業との協働する講演会や研修

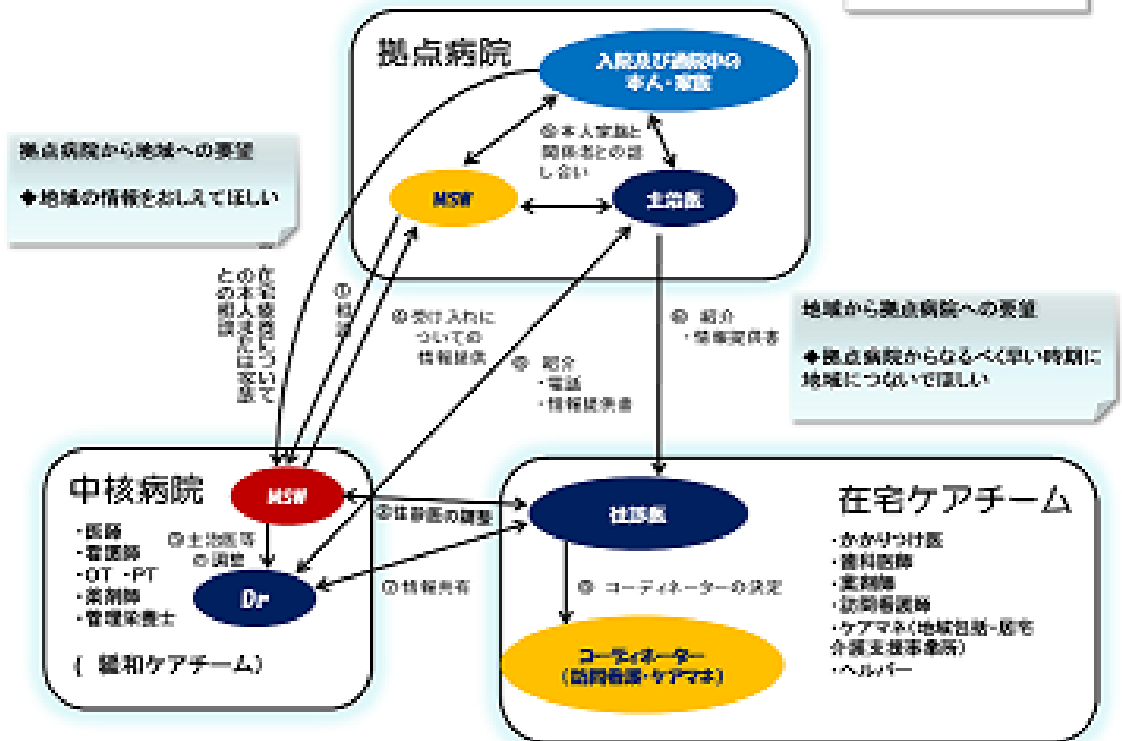


Z12・13 「がん対策」-県
Z14からは「認知症対策」-市

臼杵市のがん在宅医療連携の取り組み

【臼杵市がん患者支援体制】

平成25年9月改訂版



医師・8名

研修は多職種メンバーで作成-たとえば

講師を県・市・専門職で固める



映像作成-退院前カンファレンス



リレープレゼンテーション「専門職に望まれる連携の在り方を考える」



研修方法-多職種によるグループワーク



研修ごとと専門職・行政職員による真剣討議
互いの専門性の理解
顔の見える関係づくり



河村石仏と

	参加数	施設数
医療機関	27 /	32
訪問看護	2 /	3
介護施設	5 /	6
調剤薬局	15 /	17
歯科医院	17 /	17
登録者数	6.186(1/31現在)	
人口	39.267(1/1 現在)	



来年度までの予定

2013年

2014年

2015年

7月

10月

4月

10月

4月

10月

健診情報共有

既往歴・アレルギー歴

掲示板・メール機能強化

スマートメディア活用

介護施設連携システム

居宅連携システム

特養・老健

居宅事業所

お薬手帳電子化

歯科連携機能

調剤薬局

歯科医院

糖尿病手帳電子化

心疾患連携パス

癌緩和連携パス

認知症連携パス

医師会情報化協議会

→ 運営団体設立

お問い合わせは臼杵市医師会へ



プロジェクトZ15の課題

- ① 「うすき石仏ねっと」の仕上げ
- ② 市民啓発
 - ・自分らしい生き方を選択しましょう
 - ・24時間体制の周知
- ③ 臼杵市への移行
- ④ 人材育成 人材確保 10年後の人材とは
- ⑤ 臼杵市における認知症患者の支援体制の確立

臼杵市医師会と臼杵市が共通概念・共通目標を持ち協働に至ったことがプロジェクトZの成果

要因

1. 土壌があったこと
2. 医師会と行政とのWinWinの関係
3. 組織編成が効率的
 牽引するコア 決定するZ 実働するチーム
4. 実務者トップがメンバーのため事業が動いた
5. 地域包括ケアの共通概念を共有した
6. 専門職から啓発していった
7. 懇親会での顔の見える関係づくり
8. 年度ごとに共通目標(テーマ)の提示

臼杵市のプロジェクトZへの参加状況

		全体	県	臼杵市
プロジェクトZ参加人数	Z12	35	2	7
	Z13	48	4	15
	Z14	70	6	22

臼杵市参加メンバーの部署

福祉保健部 保健健康課- 国保年金 成人保健 母子保健
高齡者支援課-企画管理 高齡者支援 介護保険
福祉事務所 福祉課-社会・障がい福祉
協働まちづくり推進局
総務課 情報推進 防災危機管理室
消防本部 警防課-救急

行政のこれからの課題→地域支援事業への移行